

# 超顔認識者のオンラインスクリーニング用テスト (UNSW Face Test) 日本版の開発

○倉藤百花・谷本和霞・丸山優希・水口優唯・上田華澄（指導教員 中嶋智史）  
（人間環境大学総合心理学部）

## 問題

近年、非常に優れた顔認識能力を持つ超顔認識者（スーパーレコグナイザー）の存在が示されている。イギリスのロンドン警察では、『超顔認知能力部隊』を作り、実際に犯罪捜査を行っている（エンゲルハウプト, 2022）。超顔認識者をスクリーニングする方法としては、超顔認識者尺度（SRQ-J；関口・王, 2022）のような質問紙や UNSW Face Test（Dunn et al., 2020）のような顔認識課題がある。

本研究では、まず超顔認識尺度日本語版で測定される主観的な顔認識についての自己評価と、実際の顔認識能力に関連が見られるかを確認するための予備実験を行う。

次に、UNSW Face Test の日本版を開発する。UNSW Face Test は欧米で作成された課題であり、日本人参加者で実験する際に白人の顔と比較し、異なる人種の顔に対する弁別成績等が低下する他人種効果が生じる可能性が高いためである。

## 予備実験

### 方法

**参加者** 6名（女性5名，男性1名；平均年齢18.3歳，SD=0.52）が参加した。

**質問紙** 超顔認識尺度日本語版（SRQ-J；関口・王, 2022）を用いた。20項目で構成され、1「全く当てはまらない」～5「非常に当てはまる」の5件法で回答する形式であった。

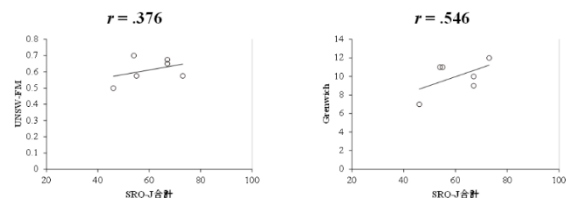
**課題** 顔認識課題として、以下の3つの課題を実施した。①Greenwich super recognizer test：横向きや眼鏡を着けたターゲット人物の顔を見て、ディストラクタの中から見つけ出す課題である。②Cambridge Face Memory Test (CFMT)：ターゲット人物の顔を記憶し、ディストラクタの中から当てる課題である。③UNSW Face Test：ターゲット顔を学習し、テスト時に Yes/No 再認を行う顔再認課題と、似た人物の複数の顔写真からターゲット顔と同じ人物か、違う人物かを分類する顔見本合わせ分類課題で構成されている。

## 結果

記述統計量および相関を算出すると、SRQ-J は平均 60.33 で先行研究（ $M=62.64$ ，関口・王, 2022）とほぼ同様であった。UNSW は平均正答率 59%で、先行研究（ $M=58.9\%$ ，Dunn et al., 2020）とほぼ同様であった。また SRQ 得点が高いほど各課題成績が高い傾向にあった。

### Figure 1

#### SRQ-J と各顔認識課題の相関



## 顔認識課題の開発

### 刺激写真の作成

日本人の顔刺激を作るために、日本人男子 20 人、日本人女子 20 人の写真を撮影する。モデル人物から、様々な場面や角度、年齢の写真を集め、ディストラクタの中から見つけ出す課題を作るために素材の準備をする。

### UNSW Face Test 日本版

UNSW Face Test は超顔認識者を見つけるために作成された課題であり、オンライン上で実施可能である。前述のとおり、顔再認記憶課題と、顔見本合わせ分類課題で構成される。またこの課題は他の課題とは異なり、再認時や分類時に証明の明るさや、年齢、顔向きなどが様々に異なる自然な顔写真を使用している。

### 展望

今後、テスト用の顔写真を集めて課題を完成させる。現状で 6 名の顔写真を撮影済みである。課題が完成次第、大規模サンプルのデータを集めることで、日本版の信頼性と妥当性を確認する予定である。また、超顔認識能力者と健常者、及び先天性相貌失認の違いについて探る。例えば、何に基づいて顔認識をしているのかや、社会的場面での行動傾向の違いなどを調査する予定である。